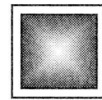


# 伝統芸能 の保存活動

吉祥院六齋歴史研究会獅子の如く  
編集部／清水美優、西片里紗、木村亜衣



吉祥院地域の都市化と生活実態の変化によって、六齋保存活動への関わりや減少や後継者不足が発生して衰退する中、私たち獅子の如くとして六齋をどのように保存するのかという課題があります。

## 六齋のはじまりと保存活動

六齋は、江戸時代以降、京都市内を中心に伝承される民俗芸能のひとつで、吉祥院地域で六齋が行われたのは明治期以降です。

戦後、京都・円山野外音楽堂で開催された「京都六齋コンクール」で吉祥院六齋保存会が3年連続で優勝を果し、その後、地方公演やテレビ出演などの活動を続けています。

現在、吉祥院六齋保存会会員の高齢化や担い手不足でその存続が危ぶまれる中、1995年（平成7年3月）に六齋担い手育成を目的に、吉祥院子ども六齋会が結成しました。吉祥院六齋保存会以外でも担い手不足のため存続が危ぶまれている他の六齋組が多く存在しています。

## 地域の都市化や経済状況の変化

昭和初期の吉祥院地域は、地域全体が近郊農村型地域で、1960年（昭和35年）代以降、急激に都市化が進行します。この変化に伴い地区住民の生活状況及び六齋保存活動も必然的に変化することになります。昭和初期までは、ほとんどの住民は農業に従事していたため、地域の共有財産である水路の利用許可を受けるためには、町内会の活動として重要な位置を占めていた六齋保存会への加入は必要不可欠でした。しかし、吉祥院地域の都市化に伴って、地域住民の仕事の形態が変化する

ことで、保存会に加入することに対する強制力が著し弱体化していきます。

## 保存会に加入する人の意識変化

保存会への強制的な加入以外の要因がなければ、保存活動が継続することは難しくなり、比較的若い会員は、地域の伝統文化を守るといった目的以外にも、自身が精神的な充足を得るために保存活動に参加しています。特に、そのような傾向は、子ども六齋会に参加する小学生たちにも顕著に見られ、楽しいから六齋に参加するのが最大の要因になります。

## 保存活動に関わる世代間の意識格差

子ども六齋会を結成したことによって、強制的な参加ではなく、楽しむために参加するようになりました。もちろん、子ども六齋の活動は、保護者、学校、各団体の協力もあり取り組めていますが、しかし、これからも継続して協力を得られることが可能なのかという点については課題も多く、例えば、六齋を強制的に参加を義務付けられてきた年代と、楽しむために参加する子どもたちと、子ども六齋を支える保護者や関係者の意識も様々で、必ずしも一致しているとは言えません。

今後は、いかにして六齋保存に対する統一した運営、指導体制等を明確に出来るかが重要になります。